



「学生たちのパワーに敬服します。  
寺島さんに早く見せたい」

Nagasaki University Exciting Students

さて、最初の白熱教室イベントから学生の動きを見守り、ディスカッションでも時折顔を見せていた片峰学長に、最後にお聞きしました。

「大学主導じゃなくて、学生たちが自主的に動き出せるかどうか…、彼らは彼らで考えてよくやっていますね。実は前回のリレー講座のときに最後に登壇された金澤一郎先生がね、場内を見まわしながら「長崎大学の熱意もわかるが、肝心の若者があまり見えないですね」と言われて、ずっと頭にあったのは事実です。でも今年、白熱プロジェクトの彼らのおかげで、リレー講座の学生の参加が一段と増えたでしょう。金澤さんに見せたいくらいだ。彼らがフェイスブックなどで流して、熊本や佐賀あたりからも来てるんだよ。あの動員力はすごいね。最終日の寺島実郎さんが楽しみですよ」

十二月十九日ですね。それにしても、トークディスカッションをすることで学生はゲストにぐっと近づき、興味をもって本講演も聞きこんでいる、いい循環ができあがっています。

「あのプロジェクト、それから春に旗揚げした核兵器廃絶センターのRECN Aサポーターなど、少しずつ出てきてますね。これが今後どこまで上昇していくか。二番難しいのは、学生は中心メンバーが常に交代していくこと。そのなかで引き継ぎ、繋げていくことがこれからの課題だね」

長大祭で毎回行われる「学長とのしゃべり場」など、長大では学生たちとコミュニケーションを持てるよ



折セッションを  
そっと見守って  
いた学長。本人  
たち以上にハラ  
ハラ、ドキドキ？

う、積極的に場を作っています。

さて、白熱プロジェクトのメンバーは、最終回の寺島実郎氏とのトークセッションに向けて着々と準備中です。

リーダーの江島さんは語ります。

「このシリーズでは、好きにやっているとっていただき、感謝しています。今後は、こういう動きを単位化してもらえると素晴らしいですね。黒川先生は「大学は学び合う場」とおっしゃっていました。学生自らが問題を発見し、解決法を考える。今回は正直、何が正解かわかりませんでした。しかし私たちが出ていく社会はそんなところではないでしょうか。だからこそ学生が考え行動するチャンスが必要なのだと思います。」

長崎大学にまたひとつ「熱くて元気な長大生」という新たな個性が誕生しました。

制作スケジュールの都合上、六回目の寺島実郎さんとのセッションについては、次号で紹介させていただきます。

チームの炎はこれから

# 燃え上がる!

## To the next stage



Nagasaki University  
Exciting Students

十五日 黒川 清氏

出る杭になるには？  
「とにかく、世界へ！」

実はプロジェクトのリーダーである江島さんは黒川さんの熱烈な信奉者。今回のトークセッションも「あの先生を学生に会わせたい」がそもそものきっかけ。建てたテーマは「Crazy Ones We are the people of TOMOTOWA」。

クレイジーワズ（出る杭）って何？ どうしたらそうなる？ メンバーは手配りのチラシまで作り事前勉強会を開催して、挑みました。

「先生のお話によっても疑問があったら学生がつつこみますから」とファシリテーターの藤田さんと塚原啓司さん（医学部）。しかし始まっているとまとったく黒川さんベース。一貫性を持った生き方とは何か。異分野の人とのコミュニケーションはどうしたらいいか。問いに返ってくる球が速すぎて見えない!? 「大学出でずーっと同じ会社にいるなんて日本は異常。その価値観に縛られる前に、とにかく一カ月以上外国に行って友達作って、自分が何者かを紹介できるように。実際に会わないとダメ。バーチャルとリアルワールドは違う。藤田さんは「私は今まで、どうしても海外に行かなくちゃいけないのかな?」思っていたけれど、すでに世界はポーターレスなんです。」「そう、あなたたちの一番のセールスポイントは日本人であること。でもそれは日本じゃ活かせないで



「日本の将来はあなたたちにかかっているよ!」

By黒川さん